

利用者アンケートで寄せられたご意見・ご要望への回答

令和3年10月に実施いたしました「利用者アンケート」におきまして、利用者の皆様から様々なご意見・ご要望をいただきました。ここでは、「運営懇談会」においていただいたご質問及びご説明いたしました内容とあわせまして、質問・要望・苦情に類するご意見に対します当園の回答を公表いたします。

※ ◎：寄せられたご意見 *：保育園の回答

【集計結果に対する当園の見解】

- * 対象者数 56 世帯（利用児童数 70 名）に対しまして、回答者数は 41 世帯、回答割合が 73.2% となりました。例年 70% 前後となっておりますが、同業他施設と比較して高水準を維持していると言えます。当園の運営に対する利用者の関心の高さが反映された数字ですので、率直に嬉しく感じています。
- * 各設問において「いいえ」の回答がほとんどなく、総合的な評価は満点（大変満足 80.5%・満足 19.5%）でした。職員間でも実績として手応えを感じているところですし、同業他施設からも感嘆されたりしていますが、結果に甘えることなく、大変満足の割合を着実に高めていけるようにしたいと考えています。
- * 感想や意見の自由記載では、当園がこの6年ほどの間に特に力を入れてきた「職員全員で子ども全員を保育する」「子ども一人一人を個人として尊重する」「保育活動の意図や内容を家庭にきちんと伝える」に関連する好評がたくさんありました。継続してきた努力の成果として受け止めると同時に、さらに実績を積み重ねていきたいと考えています。
- * 運営懇談会を企画・実施しましたが、少数の参加にとどまりました。年間予定表に記載していない急な企画で、「興味はあるが都合により参加できない」という回答が 31.7% もありましたので、需要がなかったというわけではないと考えています。次回以降については、開催日時に関する希望調査をしてから企画するようにします。

【保育活動について】

- ◎ 先生方の下準備は大変だと思いますが、工作のクオリティが高くて驚きました。
 - ◎ 制作活動がとてつもないバラエティー豊かで可愛い作品を次々に作らせてもらえてると思います。
 - * 子ども自身が「上手に作りたい」「可愛くしたい」「人に見せたい」などと思いながら取り組んだ結果であれば嬉しいことと思います。一方、いわゆる「出来映え」の評価は保育活動の意図するところではないので、取り組みの姿勢や経過に注目してもらえるような工夫を重ねていきたいと思っています。
-
- ◎ 商店街に出向いたり、図書館に行ったり、そういった活動もマスクを持参するならして、以前のように取り入れてもらえるとうれしいです。

10月25日に東京都のリバウンド防止措置が解除となったことを受けて、当園でも公共施設や公共交通機関の利用制限を解除しました。

それまでは「外出については、少人数で混雑している場所や時間を避けて行動すること」と要請されておりましたので、マスクを着用していれば良いということではありませんでした。私立ではありますが、多額の公費を預かって運営している福祉施設ですので、国や自治体の基準が示されていることについては順守するものと考えています。

◎ ひらがなや数字や簡単な英単語など、3歳児なのになんか覚えています。先生方が積極的に教えている訳ではないのかも知れませんが、興味を持ったり、覚えたりしやすい環境が整っていると思いました。なぜそのような環境を整えているのか、理由を教えてください。

* ひらがなや数字や簡単な英単語などは、特別な意図がなくても日常生活や遊びの中に溢れ返っているものです。それらにどの程度の興味を持つか否かは子ども次第ですが、子ども自身がいざやってみたい、知りたいとなったときには、それを阻害したり否定したりすることなく、必要な時間や空間などを保障することに努めています。

【 保育所保育指針解説 第2章3「3歳以上児の保育に関するねらい及び内容」(2)エ(ウ) 】

⑩日常生活の中で、文字などで伝える楽しさを味わう。

子どもの日常生活の中にある文字、絵、標識などの記号には、名前などのように所属や所有を示すこと、看板や値札などのように内容を表示すること、さらには、書物や手紙などのように書き手の意志を伝達することなど様々な機能がある。幼児期は、大人と共に生活する中で文字などの記号のこのような機能に気づき、日常生活の中で使用する意味を学んでいく時期である。

子どもは、家庭や地域の生活で、文字などの記号の果たす役割とその意味を理解するようになると、自分でも文字などの記号を使いたいと思うようになる。また、保育所の生活においては、複数のクラスや保育士等、さらには、多くの友達などがいるために、その所属や名前の文字を読んだり、理解したりすることが必要になる。このような様々な必要感を背景にして子どもは文字などの記号に親しんでいくのである。

特に、友達と展開するごっこ遊びなどの中では、看板やメニュー、値段や名前などをそれぞれの子どもなりに読んだり、書いたりすることが少なくない。しかし、まだ読み書きする関心や能力は個人差が大きいので、文字などの記号に親しむことができるように保育士等は子ども一人一人に対して配慮する必要がある。また、文字などの記号に関心を抱く子どもは、5、6歳頃にはある程度平仮名は読めるようになっていく。しかし、書くことはまだ難しく、自分なりの書き方であることが多い。そのような時においても、文字を使う喜びを味わうことができることを念頭に置いた指導をすることが大切である。

保育所の生活の中で、名前や標識、連絡や伝言、絵本や手紙などに触れながら、文字などの記号の果たす機能と役割に対する関心と理解が、それぞれの子どもにできるだけ自然な形で育っていくよう環境の構成に配慮することが必要である。また、それぞれの子どもなりの文字などの記号を使って楽しみたいという関心を受け止めて、その子どもなりに必要感をもって読んだり、書いたりできるような一人一人への援助が大切である。

◎ コロナ禍の中運動会や発表会を動画配信してくださっていますが、年長クラスだけでもできるようにしてあげてもらえないかと思います。

* 運動会や発表会は年長クラスの単独行事ではなく、例年でも年長クラスを特別視するようなことはしていませんので、「年長クラスだけでも」という考えには至りません。
また、いずれの行事も「子どもたちの成長・発達を家庭に伝えること」が主目的であり、子どもたちの成長・発達に欠かすことができない類の行事ではないと思います。

【 保育所保育指針解説 第4章2「保育所を利用している保護者に対する子育て支援」(1) 】

ア 日常の保育に関連した様々な機会を活用し子どもの日々の様子の伝達や収集、保育所保育の意図の説明などを通じて、保護者との相互理解を図るよう努めること。

家庭と保育所が互いに理解し合い、その関係を深めるためには、保育士等が保護者の置かれている状況を把握し、思いを受け止めること、保護者が保育所における保育の意図を理解できるように説明すること、保護者の疑問や要望には対話を通して誠実に対応すること、保育士等と保護者の間で子どもに関する情報の交換を細やかに行うこと、子どもへの愛情や成長を喜ぶ気持ちを伝え合うことなどが必要である。

そのための手段や機会として、連絡帳、保護者へのお便り、送迎時の対話、保育参観や保育への参加、親子遠足や運動会などの行事、入園前の見学、個人面談、家庭訪問、保護者会などがある。

- ◎ 横割りのクラス活動が、もう少しあってもいいのかなと思います。別のクラスの同学年の子たちとの繋がりが浅いように感じました。
- * 同学年ではあっても、基本は別のクラスです。単純接触効果から見て、別のクラスよりも同じクラスの子とも同士の方が繋がりは自然と深くなるものと思います。就学以降も同学年の中でクラスは分かれるものですし、別のクラスの子ともとの繋がりを深めなければと特に意識して取り組むようなことはないと思います。

【食事について】

- ◎ 自宅では特に朝食は本人の機嫌に左右されがちなので、給食で栄養バランスを保たせていただいているといっても過言ではありません。
- ◎ 自宅ではワンパターンなメニューになりがちなので、保育園で色々なメニューの食事を提供していただきありがたいです。
- ◎ 家では食べられないのに保育園では完食してきます。
- ◎ 家だと献立が偏りがちなのですが、園は献立が豊富なのでありがたいです。
- * 好評をいただいているところではありますが、保育園での食事は 1 日に必要とされる食事量の 40% 程度しかありませんし、食の営みは卒園後も延々と続くものなので、当園の取り組みで完結してしまうことがないよう、情報発信などに努めたいと思います。

-
- ◎ いつも子供が給食を残すので、申し訳ありません。
 - * 食品ロスなどの観点から「完食」が指導されるようになるのは小学校高学年からです。それまでの間は、「残す」ということで子どもが負い目を感じることがないように、食べられるものを食べられるだけ食べるということを大切にしています。

-
- ◎ 白砂糖やグルテンなどが減る方向だとありがたいです。
 - * 当園では「きび砂糖」を使用するなど、食材についてある程度の吟味はしています。一方、グルテンフリーなど各方面で謳われていることは知っていますが、小麦粉を避けた食生活は一般的に見てハードルが高く、仮に保育園で取り組んだとしても卒園で途切れてしまう公算が大きいと思います。食生活に限ったことではありませんが、一般的な家庭生活とかけ離れてしまうような特異な取り組みは、認可保育園として手を出さない方がいいだろうと考えています。

【保育園職員について】

- ◎ 先生を呼び名で呼ぶのに、やっとな親が慣れてきました。子どもが、先生を友達とっていないか、対等すぎないか等、年長者への敬意が育つのだろうか多少の不安はあります。
 - * 当園では「先生」は呼称に過ぎず、敬意を表すものではないと考えています。職員は時に指導者となりますが、援助者であり、伴走者であり、友達や仲間ともなります。そして、子どもは小さくても幼くても人格を持った一人の人間であり、互いに尊重する者同士として、基本的には対等な立場であると思います。
-
- ◎ 最近少し言葉の端々に違和感を感じる職員がいます。イライラするとかそういう言葉を発しているのが聞こえて不愉快に感じる時がありました
 - * 不愉快な思いをさせたこと、大変申し訳ございませんでした。特定の職員の言動ではあると思いますが、職員全体の課題として受け止めて、自身の言動を振り返る機会とします。

【保育園の運営全般について】

◎ コロナの影響で運動会や発表会がYouTubeでの配信で見られることが出来ましたが、映像を手元に残せるようDVDの貸出とかしてもらえたら嬉しいです。

* 動画を編集する際、映り込んではいけぬものや聞こえてはいけぬ音声などをチェックしているのですが、非常に難しく十分にできているとは言い難いところです。コピーガードなどの技術がないため、配信期間を限定するなどできる範囲での流出防止策を講じています。

◎ 入園してから園行事が全く無かったのでコロナが収束し園行事が再開出来ることを願っています。

◎ コロナで今まで大変だったと思いますが、世間的にも少し落ち着いてきていると思うので、行事や対面での保護者会など復活させて欲しいです。特にお泊まり保育はぜひやって欲しいです。

◎ 行事が年度が始まる前に中止の決断をされたのは残念でした。代替案がなく全て中止になってしまったのは非常に残念でした。

◎ 年長の行事も延期になり、お泊り保育でもなく、緊急事態宣言が明けたにも関わらず事前準備が困難なため開催中止というのは正直理解に苦しみました。

◎ 利用者に意見を聞いてからの決断、あとは状況を鑑みて柔軟な決断というのを取り入れていただけると…と思います。

◎ コロナが収まって来年度こそはイベントがたくさん出来たらいいと思います。

* 保育所保育における「行事」は、季節の行事や伝統的な行事など子どもたちが体験から教養を身に付けていくことを主目的としたものと、遠足や宿泊保育のように実際に体験することを主目的としたもの、運動会や発表会のように家庭や地域との連携を主目的としたものに大きく分けられます。コロナ禍に関わらず継続して実施している行事も多くありますし、目的は変わらずに従前とは異なる方法で実施している行事もあります。

運動会や宿泊保育のように、日常とは異なる環境において設定されたプログラムをこなしていくことが要求される行事は、相当の時間をかけて日常生活の中に少しずつそのエッセンスを散りばめていく事前準備が必要となります。登園を自粛されている児童もいる緊急事態宣言期間中に取り組むことではないので、結果的に見ても中止が妥当であったと評価しています。

年長クラスの宿泊保育は、実際の体験が目的であることは崩すことなく、状況を鑑みながら「延期→再計画→中止」と柔軟に決断してきました。今後、宿泊保育のそれとは異なる実際の体験を目的とした行事の実施を検討していきますが、宿泊保育の代替ではなく、思い出づくりが目的でもないということについては理解を得たいと思います。

◎ ときどき連絡帳の記載に先生の名前がなくどなたが書いてくださったのかわからないことがあるので名前が必ず書かれるように工夫してほしいです。

* 電子化以前にも見受けられていたミスであり、注意をしているところではありますが、必ずと約束できるほどの工夫には至っていません。当園の運営管理の観点からも誰が書いたのかが記録されていることは重要ですので、引き続き改善策を検討していきます。

◎ 導入したキッズリーの活用方法などの案内があると、助かります。例えば、子供達の写真ダウンロードしてねとか、ここから相談できますとか、そんな案内があると、キッズリーに愛着も湧くであろうし、もう少しその手の告知を希望します。

◎ キッズリーの投稿内容の反映が、どうやらリアルタイムでは無いので、通知が来てから読んでも記事がない状態が続いています。

* キッズリーは市販のアプリであり、当園も説明書以上の情報は持ち合わせていません。また、「連絡帳」「個別連絡」「園からのお知らせ」「カレンダー」の機能しか使用していないため、特別な活用方法も特には思い当たりません。アプリの不具合などについては、当園では対処することができませんので、個別に運営者までお問い合わせください。

【「こうして欲しい」について】

◎ 出欠の確認コード?のある位置が人が多いと大混雑なので…絵本の棚の上とかにした方が広いんじゃないかと思ったり(コード関係とかで無理なのかな?)

* 建物設計の段階で下駄箱上に設置するものとして LAN ジャックと電源コンセントの位置を決めていたので、移動することをまったく考えていませんでした。ご意見を受けて検討したところ、既設の無線 LAN で対応できること、電源コンセントを電気工事により増設できることがわかりましたので、早々に改善することができました。

◎ 卒園に向けて園での楽しい思い出づくりを手助けしていただけたらな、と思います。

◎ 桜のキャンプが今年もなくなり、なんとか他の方法で思い出に残るようなことをしていただけたら嬉しいです。

* 保育園生活全般において「思い出づくり」を目的として実施しているようなことはほとんどないと思いますが、結果的に子どもたちそれぞれの中で「思い出」になることは、たとえコロナ禍であってもたくさんあると思います。卒園年度に関係なく、行事にこだわるのでもなく、引き続き日常の保育活動を子どもたちとともに楽しく過ごしていきたいと思っています。

◎ 誕生日 T シャツのように、行事の時にクラス T シャツ等用意してもらえると、保護者同士の無用なトラブルも避けられるので検討してほしい

◎ 卒園式後の謝恩会等はお互いに負担が大きいので、コロナ後もなしにすることを園としても打ち出してほしい

◎ 行事の中止などのコロナ対策について、親同士で同意を求めてくる人への対応が難しいです。

* 児童福祉施設ですので、様々な家庭が在籍されているということについて一定の理解を得たいところではありますし、個人では言いづらいということも想像に難くないのですが、家庭同士の関係について当園が介入することは望ましいことではないと考えています。

行事の時にクラス T シャツを揃えることについて、保育上の意義はないと思いますので、当園が用意するということはありません。また、担当職員に対して T シャツの購入や行事等での着用を要望されることもありますが、そこは一律でお断りしています。

謝恩会については、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため密集や飲食等の制限はあるにしても、家庭同士の合意による企画を当園が拒否するようなことはありません。毎年のご招待についても、子どもたちに何か出し物のようなことをさせたりすることに釘を刺すことはありませんが、職員が負担を感じているということはありません。

◎ 感染症の園児が出た際、クラスを教えて欲しい。また、クラス毎の感染者数を発表して欲しい。

* 感染症の罹患情報は欠席状況との関連性が高く、クラスの公表が個人の特定につながってしまうことを懸念します。非常にデリケートな個人情報であるため、ご要望にはお応えできません。また、当園のように玄関など共用部分も多く、保育室間の移動も頻回である保育園において、感染症の発生情報をクラス単位でくくる意味はほとんどないものと考えています。

【保育所保育指針 第1章1(5)「保育所の社会的責任」ウ】

保育所は、入所する子ども等の個人情報適切に取り扱うとともに、保護者の苦情などに対し、その解決を図るよう努めなければならない。

保育に当たり知り得た子どもや保護者に関する情報は、正当な理由なく漏らしてはならない。児童福祉法第18条の22には、保育士の秘密保持義務について明記されている。また、個人情報の保護に関する法律(平成15年法律第57号)第3条においても、個人情報は「個人の人格尊重の理念の下に慎重に取り扱われるべきもの」であることが示されている。

◎ 布団の衛生面が気になります。シーツを替える際に髪の毛やほこりが付いていて、このまま寝ているのかと心配になります。

* 当園には寝室専用の保育室はありませんし、子どもと職員と何十人もの人が入り出していますので、髪の毛やほこりなどはすぐに溜まります。大きく目につくようなものはその都度取り除くとしても、ある程度までは目をつぶらざるを得ないため、そのまま寝ているということもあると思います。ご心配はおかけしますが、理解を得たいと思います。

◎ 半袖から長袖の移行や、タオルケットから毛布への移行などタイミングがいつもよく分からず戸惑ってしまうため何か目安があれば教えていただきたいです。

◎ 学年が上がるときなど、上にこどもがいないときには、どうしたらいいのかという説明がわかりにくい時もあるので、もう少し具体的に教えてもらえると助かります。

* 当園でも確定した目安は持ち合わせていません。気候の変化は不安定ですし、子どもたちの様子なども加味すると、固定的なタイミングはないだろうと思います。

学年が上がるときも「どうしたらいい」ということはそれほどなく、子どもたちの様子を加味しながら探っていくことの方が多いと思います。

その都度のお知らせとなりますので、また変わるのかという印象も残ることがあるとは思いますが、理解を得たいと思います。

◎ 保護者がオンラインになったのはよかったです。土曜日に行われるため、パパも参加でき、交流が持てるのはとてもいいと思いました。

* 保護者のオンライン開催、土曜日開催については、好評をいただくことも多いのですが、通信環境が十分ではない家庭や子ども離れることができない家庭、土曜日に登園している家庭などには不都合が大きい手法であると思います。

当園では状況により選択できる手段が増えたとは考えていますが、必ずしも改善したとは捉えていませんので、今後の開催方法についてはさらに検討を重ねていこうと思います。

◎ 無理なことは分かっていますが、個人的には連絡帳は紙ベースに戻してほしいです。

* 最終的には当園の判断によるものですが、どのような手法にもメリットとデメリットがあり、さらにメリットとデメリットどちらが大きいかは人によって異なるということも念頭に置くようにしています。

すべての人にとって都合が良いということはほとんどないと思いますが、大きな声に流されたり、多数決で決めたりすることがないように努めます。

◎ 以前あった誕生日の掲示やこどもの作品の管理方法など、変更があったのならお知らせしてほしいです。

* 重要な変更については「園だより」などでお知らせするようにしています。当園と利用者との間で何を重要とするかが異なるケースがありますが、変更の際には目的や意図を明確に案内するように努めます。

◎ 絵本を借りるのを楽しみにしているので、本の種類や数がもう少し増えると良い

* 管理が可能な範囲で種類や数を増やしましたのでご利用ください。また、社会体験も含めて図書館を利用されることもお勧めします。

◎ 朝、先生が全体に話をしているときに全く話を聞かないで遊んでいる子をよく見かけます。理由を伝えて考えてもらうより先に、まず止めなければならぬような危険行動もあります。例えば子どもが「遊んでいたい」と言っても、先生がお話するときにはちゃんと集まって目を見て話を聞くということを教えなければいけない、またそれを習慣付けなければいけない。そういうことも沢山あると思います。難しい時もあるとは思いますが、待ち過ぎたり受け入れようとし過ぎたりしているところがないか見直してみるのも必要かと思えます。

* 保育所保育において、「先生がお話するときにはちゃんと集まって目を見て話を聞くということを教えなければいけない、またそれを習慣付けなければいけない」ということはありません。

【保育所保育指針 第2章3(2)エ(ウ)②】

子どもが自分の思いを言葉で伝えるとともに、保育士等や他の子どもなどの話を興味をもって注意して聞くことを通して次第に話を理解するようになっていき、言葉による伝え合いができるようにすること。

子どもは、相手に自分の思いが伝わり、その思いが共感できることで喜びを感じたり、自分の言ったことが相手に通じず、言葉で伝えることの難しさやもどかしさを体験したりする。また、相手に自分の思いを伝えるだけでなく、保育士等や友達の話聞く中で、その思いに共感したり、自分のこととして受け止めたりしながら、熱心に聞くようになっていく。例えば、相手の話が面白いと、その話に興味をもち、目を輝かせて聞き入り、楽しい気分になることもある。また、時には友達とのいざこざなどを通じて、その時の相手の気持ちや行動を理解したいと思い、必要感をもって聞くこともある。このような体験を繰り返す中で、自分の話や思いが相手に伝わり、また、相手の話や思いが分かる楽しさや喜びを感じ、次第に伝え合うことができるようになっていく。その際、保育士等が心を傾けて子どもの話やその背後にある思いを聞き取り、友達同士で自由に話せる環境を構成したり、子ども同士の心の交流が図られるように工夫したりすることで、子どもの伝えたいという思いや相手の話を理解したいという気持ちを育てることが大切である。

◎ 縦割り保育を見直して欲しいと思えます。この年齢は学年が一つ違えば体格が大きく違い、年上の子が走り回ったりよじ登ったりしているとぶつかったりしたときに年下の子が大怪我をします。特に朝、夕の大人の人数が手薄になっているときにヒヤヒヤしたことが何度もありました。縦割り保育の良いところも沢山あるので、ぜひ継続はして欲しいのですか、同学年での活動ももっと取り入れて欲しいです。

◎ 横割りクラスの活動をもう少し増やしてもらいたい。

* 学年が同じでも体格や行動などに大きな差異は見られますので、異年齢クラスに起因することではないと考えますが、差異があることを前提とした保育環境の構成にはより一層努めます。また、異年齢児のクラス編成や活動計画は、定員規模、職員配置、保育室設備などの諸条件のもと、保育の専門性をはじめとする多面的な観点から設定しています。

◎ 縦割り保育に徹していくのであれば、先生より年長クラスが軸になって活動していくくらいの力を育てて欲しいと思えます。

* 発達過程について、平成20年改定の保育所保育指針においては「おおむね〇歳」などと8区分で示されていましたが、「〇歳だからできるようになる」とか「年長クラスならでは」などと個々の発達を軽視した保育活動を助長してきたという反省から、平成30年改定により「乳児保育」「1歳以上3歳未満児の保育」「3歳以上児の保育」と3区分に変更されました。また、同じく平成30年改定により、卒園を迎える年度の後半に見られるようになる姿として「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が示されましたが、到達すべき目標ではないことや、個別に取り出されて指導されるものではないということが解説されています。年上の子どもが憧れや模倣の対象となることは多くありますが、当園では保育指針に基づき、「年長クラス」をことさら強調するようなことがないように注意しています。

◎ 体調不良時の隔離の基準について少し気になっております。子どもが発熱してお迎えに行った際に事務室に待機していたこともありましたが、普段通り教室で遊んでいたこともあったので、仕方のないことですが、保育園で風邪や感染症を移し合ってしまうことも多々ありますし、これからインフルエンザ等流行る季節にもなるので、なるべく体調不良時には別室でお迎えを待てた方が良いのかなと思いました。スペースや対応する方の問題もあると思いますので、なかなか難しいと思うのですが。

* 子どもの体調不良について、感染症か否かを判断するようにしています。診断はできないのであくまでも疑いでしかありませんし、間違えることもあります。当園が感染症ではないと判断したケースにおいては、別室への「隔離」の必要はほとんどないと考えています。感染症の疑いがあつたり、経過観察に予断を許さないような症状であつたりするときは、スペースや人員の問題などなく即隔離となりますが、体調が優れない中、保護者のお迎えを心待ちにする中、少しでも安心して過ごすことができる空間はやはり慣れた保育室であろうと思いますので、不必要な隔離は極力しないようにしています。

◎ 保護者会で見ていただいた日々の様子の動画を配信していただきたいです。zoom中には子どもの対応で見逃してしまったシーンもありますし、夫婦でもう一度ゆっくり見られたらいいなと思います。

* 家庭で自由に視聴できるようにするための編集作業は非常に難しく、かなりの作業時間を費やします。保護者会で使用する動画の編集には、保育活動報告（映像版）などと同等の作業時間を割くことができないので、その場のみでの視聴を前提とした簡易な編集に留めています。

◎ 保育士さんと保護者がもっと話しやすくなると嬉しい。連絡帳の電子化もあり、年齢が上がるにつれ朝や迎えの際に保育士さんと話す機会が格段に減っている。大事な用があれば声をかけるが、そうでなくても日頃から相談しやすい環境があるとありがたい。

* 学年が上がるにつれて担当する保育士の人数が減るのは、保育園のシステム上必然のことです。また、日中と比較して児童数が少なくなる送迎時間帯に担当する保育士の人数も相応に少なくなるということも必然ですので、年齢が上がるにつれて直接口頭でやり取りをする時間が格段に減るということは避けようのないことです。そのことによってコミュニケーションが不足することがわかっているので、当園では学年を問わず「連絡帳」を用意して、毎日個別に丁寧に記載するようにしています。一般的な保育園では不要とされていたりことが多い「3歳児クラス以上の連絡帳」について、卒園まで個別に続けているということはなかなか珍しい取り組みです。当園が、家庭との情報共有や共通理解、相互連携を非常に大切にしていることの表れと理解を得たいと思います。

☆ ご多忙のところ、令和3年度利用者アンケートへのご協力、運営懇談会へのご参加をいただきましてありがとうございました。今後も職員間にて検討を進めていきますが、上記の回答についての詳細な説明を希望されたり、また違ったご意見やご感想があつたりする方は、お手数ですが園長までお知らせください。匿名でのご意見やご感想につきましては、公式ウェブサイト上の「お問い合わせフォーム」で受け付けていますので、必要に応じてご使用ください。

令和3年11月12日
社会福祉法人わかたけ会
わかたけかなえ保育園